

題名 貝が大そうどう

作者名 中林 風和（なかばやし ふうな）

学校名 神戸大学附属小学校

学年 二年

わたしは海が大好きです。海の生きものも大好きです。ですが、わたしには海の生きもの
のせいで、とてもとてもこわい目にあった事が一だけあります。今からその事をみなさん
にお話ししたいと思います。

ある日、わたしは海がへあそびに行き、お父さんと宝さがしをしていました。するとと
つてもかわい貝がらを見つけて大よろこび。よく見るとそこら中いっぱい！わたしは見
えるかぎりひろって、大切に家にもって帰りました。

あらってかぎろうと、せんめんきに水と入れてお風呂場において、おトイレに行きました。
帰りの車がまんしていたから大急ぎでした。おトイレから、ほおおとしながらもどつて
くると、お風呂場から、

「カサカサカサ、カサササ、カサ。」

というきみような音が聞こえてきました。お風呂場をそおつとのぞくと

「ぎゃあああああああああああああ。」

「お母さああん！へんな虫いいい。」

わたしはひめいをあげてしまいました。なぜかって？だって、せん面きの中から足が生え
た小さな虫が、いっせいに外へ出ようとしていたんだもん。するとお母さんが、

「えー、ごきぶり出ちゃったの！お父さああん。」

と、お父さんをつれて来ました。わたしはこわくて、見ないようにして、お風呂場のすみっ
こに、いそぎんちゃくのようにはりついていました。すると、お母さんが、

「なあんだあ、やどかりちゃんじゃん。」

と大わらいを始めました。

「えっ？やどかり？やどかりってなにそれ、だれそれ。」

わたしはキョトンとしてしまいました。そして、ちよつとはずかしくなって、顔をまっ赤
にしてしまいました。

「知っ知ってるもん。」

と、はずかしかったのと言ってしまいました。

でも、そのころは、やどかりについて何も知らなかったのです。本とうは。

「さあ、きゅう出！きゅう出！」

お母さんが一びぎずつたすけはじめました。

「ほら、ふうなも！」

と言われ、やってみました。が、チクツとかまれた気がして、ほうり出しそうになりました。
でも、がまんしていたら、コロナとかくれてしまったり、チョミンと出て来たりして、とて

もかわいくなってきました。わたしは、それをかいたくなってしまう。

「お母さん、かってもいい？」

と聞いてみました。でもお母さんは

「だめだよ。うちにいたら死んじゃうよ。海のおうちに帰らせてあげようね。」
と言いました。

もうまっくらな夜だったので、お父さんが一人でもどしに行ってくれました。でも、わたしもどうしてもバイバイがしたかったので、スマートフォンでビデオで帰っていくところを見せてくれました。すなはまにおろすと、チミチミ、チミチミ、チミチミ、と海の中へもどっていきました。とてもうれしそうに見えました。わたしはほっとしてねることができました。その日は、ゆめもやどかりのゆめを見た気がします。

やどかりのことが大好きになったので、わたしは、やどかりちゃんのことを調べてみることにしました。そうすると、びっくりすることがわかりました。なんと、やどかりのからばかり物だったのです。わたしは生まれた時から自分でもっているのだらうと思っていました。しかも、かり物の貝がらを、なんとなんと、何回も取りかえるのです。取りかえる時は、はさみでぴたりサイズかどうかを自分ではかるのです。おどろきました。なんでそんな事をするんだらうと思いました。それは、おながやわらかいから、守るためだそうです。かたいパンツみたいなものなのかなあと思いました。

それからわたしは海へ行くと、やどかりをさがすのが楽しみになりました。でもある時行った海にはやどかりがいませんでした。

「なんでいないのかなあ。」

と、お母さんにはぶつぶつ言いました。

「この砂は、よそから持ってきているって聞いた事があるけど、だからかなあ。」
と、お母さんもよく分からないようでした。

わたしは、何か分からないかなあと、調べてみました。やどかりは生ぞん競そうがきびしいという事がわかりました。やどかりが生きていくためには、自分の食べ物だけじゃなく、貝がらがひつようなのです。だから貝がらが足りない、やどかりどうしでとり合いになってしまうこともあるし、なくて死んじゃう子もいるのです。ということは、貝がないとだめなのです。なぞがとけました。そこには貝もいませんでした。だからやどかりもいなかったのです。

わたしは、海もやどかりも貝も大好きです。

だから、やどかりや貝がたくさんいるすなはまがたくさんある海が、ずっとずっといつまでもいつまでもつづきますように。わたしも自分ができることをいろいろたくさん考えていこうと思います。

わたしの

「やどかり大そうどう」

のお話でした。

みなさんも貝がらをおうちにもってかえる時は、気を付けてくださいね。

さんこう文けん

「なぜなぜベストずかん5

みずべのいきもの1」

はっ行しよ 学研

三十四、三十五、五十六、五十七ページ